

ともに・・・

R8. 3. 2

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

「**“ありがとう”**と言われて、
とてもうれしいです」
～ご高齢の皆様へのお手紙～

**今寒いですが、お元気ですか？ わたしは元気です。
わたしが今がんばっていることは、持久走です。
おじいちゃん、おばあちゃんたちもかぜや病気になら
ないように、お元気でいてください。**

これは、全校の子どもたちが、地域のご高齢の皆様にお渡ししたお手紙の中のひとつの文面です。北杵築地区社会福祉協議会の事業とタイアップした取組の一環で、ご高齢の方に、さらに元気になっていただこうと、子どもたちが気持ちを込めながら手書きしました。

先日、この子どもの手紙を受け取った地域の永徳ひろこさんが、お手紙を書いてくれた子どもにお礼を言いたいと、娘さんの付き添いのもと、来校されました。

永徳さんは、子どもの手紙を、涙を流して読んだとのことで、たいそう感激して何度も何度も読み返したのだそうです。そして、この手紙を仏壇に供え、毎日朝晩、亡ご主人に手紙を読み聞かせているとのこと・・・。

娘さんによると、この手紙をきっかけに元気が出てきたそうで、「自分も子どもたちのために何かをしたい」と、手作りお饅頭を全校分作ってくださいました。

手紙を書いた5年生の子どもを校長室に呼び、対面していただきました。永徳さんは、このお手紙が入っていた封筒の表に、「〇〇さんありがとう」と書き添え、持って来てくださっています。その言葉を見せながら、子どもを見つめ、何度も何度も感謝の気持ちを伝え、握手を交わしました。



お帰りになった後に、子どもに話を聞くと、「元気になってくれるようにと思いながら書きました。ご高齢であるにもかかわらず学校に来てくれ、ありがとうと言われて、とてもうれしいです」と語っていました。

ご高齢の皆様にお手紙を書く取組は、子どもたちに

とっても、地域の一員としての役立ちを実感できる大事な経験となっているようです。

児童数が現在30名とだんだん少なくなり、子どもたちができることには限りがありますが、可能な範囲の中で今後も地域のために関わらせていただければと思います。

「いっしょにまい日れんしゅうしました」

「校長先生、縄跳びを見てください」。先週の昼休み、1年生からのお誘いです。数日前に、縄跳びが上手にできるようになったことを私にお話してくれた子ども二人が、実際に跳ぶ姿を見てもらおうと思ったようです。

私を目の前に、二人が跳びはじめます。前跳びをするのかなあと思いきや、なんと交差跳びをはじめました。しかも縄を交差させるスピードが速く、ぴょんぴょんぴょん・・・とリズムよく跳ぶのです。「わあ～、すごい！」あまりのうまささに驚きです。二人はさらに、高速前跳びやあや跳び等さまざまな技を披露してくれます。



「二重跳びもできるよ!」と、さらに二重跳びも見せてくれました。これまでの練習で、連続5回跳べたと話してくれた子もいます。「校長先生は、1年生の時、二重跳びはできなかったよ」と私が言うと、二人は、「休み時間に二人で練習しようと約束して、一緒に毎日練習した」と教えてくれました。

二人は1年生になる前は、縄跳びを上手に跳ぶことができなかったのだそうです。きっと励まし合いながら、毎日練習を重ねてきたのでしょう。そして、二人で一緒に練習をし続けたからこそ、このような大きな上達を見せたのだと思います。

この1年生の、友達と支え合い、高め合う姿は、まさに本校の学校教育目標にある「**自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子**」と重なるものです。

お年玉募金を寄付しました

児童会の取組である“お年玉募金”のご協力、大変ありがとうございました。募金の総額は6465円、また、書き損じはがきも69枚集まりました。

2月24日(火)、児童会を代表し、運営委員会の子どもが、杵築市社会福祉協議会に寄付をいたしました。

